

甲斐善光寺

平成二十七年春、

七年に一度の勝縁

御開帳

行事日程

(各日午前十時厳修)

四月四日(土) … 回向柱立柱式

四月五日(日) … 開闢大法要

五月三日(日) … 中日大法要

五月三十一日(日) … 結願大法要



平成27年 4月5日(日)~5月31日(日)

お問い合わせ専用電話番号
(午前8時~午後5時)

TEL: 055-231-0934 FAX: 055-231-0757

〒400-0806 山梨県甲府市善光寺3-36-1

URL: <http://www.kai-zenkoji.or.jp/> E-mail: staff@kai-zenkoji.or.jp

六善光寺同時
御開帳

- 信濃善光寺
- 飯田元善光寺
- 祖父江善光寺
- 関善光寺
- 岐阜善光寺

御本尊善光寺如来

(重要文化財)

当山の御本尊は、建久六年(一一九五)尾張の僧定尊が、秘仏である信濃善光寺の前立仏として造立したものです。定尊は、如来の夢の告げを得て勸進に行脚し、四万八千余人もの寄進を得たといわれます。御本尊は、いわゆる一光三尊式善光寺如来像の中では、在銘最古、かつ例外的に大きな等身像として著名です。善光寺の御本尊は、仏教伝来とともに将来された、生身すなわち、実際に生命が宿っている霊像として深く信じられておりました。しかし、絶対の秘仏のため、人々が拝むことはできません。そこで鑄造されたのが、本像であると考えられ、文化的にもたいへん貴重な存在です。

平成九年春に、御本尊の八十年ぶりの御開帳を厳修いたしましたところ、全国より多数の善男善女が御参詣下さいました。これを機に、信濃善光寺様と同様、七年に一度の御開帳をお勧めすることとなりました。



山門(重要文化財)



阿弥陀三尊像(重要文化財)



最古の源頼朝・実朝木像(県・市指定文化財)



日本一の鳴き龍

甲斐善光寺の歴史と宝物

当山は、開基武田信玄公が、川中島の合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ、永禄元年(一五五八)、御本尊善光寺如来像をはじめ、諸仏寺宝類を奉遷したことに始まります。

ここ板垣の郷は、善光寺建立の大檀那本田善光公葬送の地と伝えられ、信濃より大本願鏡空上人以下、一山ごとくお迎えいたしました。その後、武田氏滅亡により、御本尊は織田・徳川・豊臣氏を転々といりましたが、慶長三年(一五九八)信濃に帰座なさいました。甲府ではあらたに、今回御開帳の前立仏を御本尊と定め、現在に至っております。かつては本坊三院十五庵を有する大寺院として浄土宗甲州触頭を勤め、徳川家の位牌所にもなっておりました。豪壮な七堂伽藍は、江戸時代に一度焼失いたしましたのが再建され、金堂は東日本最大級の伽藍として、山門と共に国の重要文化財に指定されております。また金堂中陣の日本一の鳴き龍の天井、裏堂のお戒壇巡りは、参詣の皆様にも親しまれております。

御本尊善光寺如来像以外にも、平安時代の阿弥陀三尊像二組も重要文化財に指定されております。また、日本最古の源頼朝像(県指定)ほか、法然上人像・源実朝像・熊谷直実像・本田善光夫妻像・玄和居士像(以上市指定)などの肖像彫刻、善光寺如来絵伝・当麻曼荼羅(以上県指定)・地藏十王図(市指定)などの絵画類ほか、信濃伝来の銅鐘(県指定)など、文化財の宝庫としても知られております(二部宝物館にて公開)。

毎日3回の法要を行います。その際、御先祖様の御供養や厄除などの御祈願をお受けいたします。寺務所受付にてお申し込み下さい。

- 開扉:午前8時
- 日中法要:正午
- 閉扉:午後5時



拝観料

- 大人…500円
- 小学生…250円
- 団体…30名様以上2割引

御開帳拝観受付時間

- 午前8時～午後5時

交通のご案内

■ 電車の場合

- JR中央線・甲府駅北口よりタクシー10分
- JR中央線・酒折駅より徒歩15分
- JR身延線・善光寺駅より徒歩7分

■ 自動車の場合

- 中央自動車道・一宮御坂I.Cより20分
- 中央自動車道・甲府南I.Cより25分
- 中央自動車道・甲府昭和I.Cより20分